

# しば子先生の

## ミニミニ 芝生教室

先生：『ペンクロス』クリーピングベントグラスは1950年代に開発され、クリーピングベントグラスを全世界に広めて新しい時代を築いた記録的な品種だわね・・

生徒：今でもたくさんのゴルフ場が使っていますね・・

先生：でもさすがに種子の生産は終了したようだわ・・

生徒：今はたくさんの新しい品種が出ていますがそれぞれ違いはあるのでしょうか？

先生：そうね・・今はいろいろな種会社からたくさん出ているわね・・すべての品種について理解してはいないけど、品種を選ぶときに大事なことは「人間が目的を持って作った」ものだという事ね・・

生徒：どういう意味ですか？

先生：品種の改良というのはタダ闇雲に行っているのでは無く、人間が**ある目的のために**たくさんの元株から選抜し交配し改良しているという事よ・・

生徒：なるほど・・例えばオーガスタの目指すグリーン用途・管理条件に合う品種を選抜したのがA・Gシリーズだと言うことですね・・

先生：そういうこと・・・オーガスタの条件とは、極端な低刈りでも密度の下がらない高速で素晴らしいコンディションを目指す究極のハイメンテナンスと言うことかもしれないわね・・

生徒：選抜というのは希望する目的の条件に合った能力の品種を選んで開発するということなんですね・・

先生：自然界で自然に生き残った原種の品種はその特徴を理解するには育ててみないとわからないけど、選抜されて品種改良された品種は、その選抜の過程を理解すれば性質がわかるので、期待する用途・管理条件に合った品種を試すこと無く選べると言うことね・・

生徒：逆に言うと、その選抜の目的に合った管理条件下でないと期待した性能が出ないと言うことですね・・

先生：そういうことね・・昔「ケイト」という品種があったけど、これはベントグリーンの無い米国南部の暖地型芝生地域のテキサス州でプロゴルファーを育てるために暖地型地域でも育つベントグラスの品種改良を目指したことがあるわ・・このときの選抜方法は、夏場のベントの弱みである高温土壌での根圏の維持に耐える品種を選抜するために、人工的に土壌温

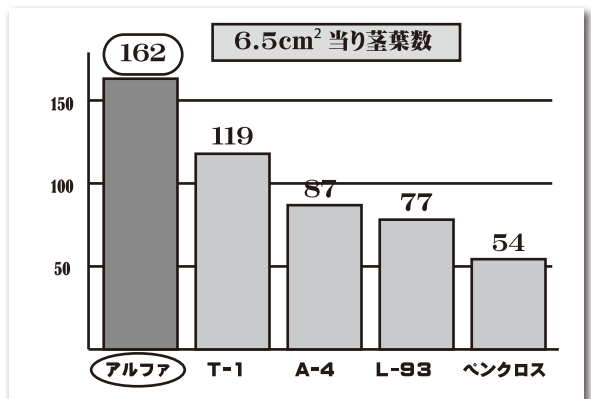


度を上げてその中で生き残った品種を選抜していたわ・・

生徒：すごいですね・・

先生：最近の品種で『アルファ (T-2)』という品種は、2008年のリーマンショックで全米のゴルフ場が不景気になって、管理レベルが下がってしまったときに品種改良されたんだけど、低管理で刈高が高くても早いグリーンを維持できて、多少の生育障害があってもすぐに回復する管理の楽な品種が作られたわ・・

生徒：なるほど・・贅沢なオーガスタの管理では無く、



ローメンテナンスでも良いグリーンが作れるように品種改良がされたんですね・・まさに時代背景が関係していますね・・

先生：グラフの通りペンクロスよりも3倍近いシュート（茎葉・芽数）数があるって、高い刈高でも密度を維持できるので早いグリーンが容易に出来るわ・・

生徒：なるほど！

先生：それにこのアルファはランナーの生育が強く、インターシーディングでも横によく広がるので歩留まりが高く、またカタビラグリーンの中に蒔いてもカタビラのコロニーに食い込んで広がっていくのよ・・

生徒：すごいですね！

先生：またランナーに貯められる養分が多いのでストレス障害からの回復も早いわ・・アルファに限らず品種改良品は開発者がどういう意図を持って開発したかの論文があるからそれを読むのが一番大事よ・・アルファの論文やプレゼンはHPにあるから興味があったら見てね・・

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・  
shibako@hugh-enterprise.co.jp

《芝生教室のバックナンバーはこちらから》